



## 座光寺風景

### 稲刈りがんばったよ

5年生みんなで力を合わせた米づくり。今年は全部手刈りで収穫しました!!  
(10月8日、耕雲寺横の田んぼにて)

#### 農家さんの困り事

座光寺小5年 代田由美香

5年生に進級し、今年も米づくりが行われました。

私には、米づくりの中で一番心に残っていることがあります。それは「米づくりの1年」についてです。なぜかという、1月から12月までおいしいお米をつくるのに欠かせない作業がたくさんあって、1枚の田んぼだけでも忙しいはずなのに、それ以上のかなり広大な田んぼを管理されている方がいて「すごいな」と思ったからです。です

#### 思い出をつめた田んぼ

座光寺小5年 中田向日葵

私は昔から、「米づくりなんて簡単なんだろうな」と思っていました。けれど今年、代かきから脱穀までを経験し、米づくりを甘く見ていたことに気が付きました。

私が一番大変だったことは田植えです。理由は、土がべちよべちよで上手く前に進めないし、苗を真つ直ぐに植えられず曲がってしまうし、田んぼの水は冷たいし、事前に拾い切れていなかった木の枝が足に触れて痛さもあつ

が、そんな農家さんが、後継者不足などの問題を抱えていると社会科の授業で学びました。その問題が少しでも解決できるように何かしたいなと思いました。

例えば、人手不足なら自分が農家になったり、農家の方が増えてくれるようなイベントを行ったりなど、役に立てることを行ったりしたいです。

「米づくり」という貴重な体験ができて良かったし、農家さんの問題が少しでも解決できるように、自分から行動したいです。

で、とても大変でした。しかし、だんだん慣れていくとあまり気にならなくなり、泥だらけになった友だちと大笑いしました。疲れて大変でしたが、泥だらけになって、たくさん笑いました。田植えは一番大変で、一番楽しい時間でした。

機械で行った田植えではないので、苗の並びは少しぐちゃつとしていたけれど、私の目に写った田んぼは、世界で一番きれいで、思い出がたくさんつまった田んぼに見えました。



## 市長と語るまちづくり懇談会

### リニア関連・人口減少・

### 地域整備で活発な議論

#### 市長と住民が意見交わす

9月29日(月)、座光寺公民館で「市長と語るまちづくり懇談会」が開催され、多くの住民が参加した。冒頭、牧野自治会長は、座光寺で進むリニア関連工事、とくに保守基地での要対策土使用をめぐり、地元住民に不安や反対が根強いことを指摘した。農業・養殖業者の間では水質や風評被害への懸念が大き

く、市には丁寧な説明と住民への寄り添いが求められると述べた。また、渋谷区・奈良市との交流事業が活発であること、子どもたちからはボール遊びができる芝生公園の要望が高まっており、恒川官衙遺跡公園の早期整備が期待されていると語った。

佐藤市長は、座光寺ではリニア工事、道路整備、歴史交流館準備、大堤団地建て替えなど多くの事業が同時に動いていることに触れ、地域の協力へ感謝を示した。エス・バードでの信州大学によるグリーン水素研究にも言及し、産業振興の可能性を強調。また、渋谷区との交流継続や恒川官衙遺跡公園の芝生広場化も前向きに検討すると述べた。南大島川の濁り対策や夏祭

りでの雨天対応力にも触れつつ、リニア保守基地への不安については、JRに安全対策を求めるとともに、

検査や第三者機関の設置などで安心を確保する姿勢を示した。

続いて市長からは、市の重要施策として以下の説明があった。文化会館は築50年を迎え老朽化が進んでおり、建て替えに向けて基本計画を策定中で、複数箇所での整備案を含め検討し12月にこれをまとめる予定。南信運転免許センターは新警察署完成後、令和11年に運用開始予定。また、人口減少が深刻で特に20代女性の流出が大きいことから、空き家活用や住宅政策を進め、藤山浩氏の「田園回帰1%戦略」を参考に来年度から各地区で人口回復の戦略づくりを進めるとした。

その後の意見交換では各種課題が議論された。通学路の倒木問題については、座光寺小北側の市道で倒木が続き、PTAが強く懸念。市は危険木伐採補助制度や地区整備支援事業を案内し、関係部署と連携して安全確保に努めるとした。土木改

善では、要望の約4割しか対応できていない現状が示され、維持管理負担の増大を受け住民は将来の維持が容易な道路整備を求めた。市は可能な範囲で対応し、JR東海にも維持管理への配慮を要請している。

共和地区では、数年前に示されたアリーナなど公共施設計画の続報がなく、地権者が不安を抱えていると指摘。市長は候補地としての重要性は変わらないが内容未定のため説明ができなかったと述べ、地元側は丁寧な対応を求めた。大堤地区は、長年立入不可の堤を埋め立てて活用したいという住民の要望に対し、市は耐震性や将来活用を含め慎重に検討中。住民は商業施設誘致など当初案を希望している。

各地で発生した下水道陥没事故への不安について質問があり、市長は市内の大口径下水管は1カ所のみで検査結果も良好と説明。大規模陥没の可能性は低いが、

道路陥没リスクに備えて空洞調査を実施し、緊急工事が必要な箇所は都度対応していると述べた。緊急輸送路を中心に、引き続き点検・補強を進め安全確保に努める方針を示した。

### 住民と膝詰めで意見交換 議会報告会が 開催されました

10月9日(木)、座光寺公民館で議会報告会が行われました。

議会報告会は毎年、市内7会場を巡回して行われており、座光寺と上郷地域の北部地区については、今年は座光寺公民館を会場として開催されました。

報告会は二部構成で行われ、前半では、これまでの議会報告会で出された意見を踏まえた今年度の議会の取り組みや、課題解決の進捗状況、議会改革の取り組みなどについて報告がありました。

後半は分科会として、7、8人ほどの小グループに分かれ、「議会・議員の在り方について」をテーマに意見交換が行われました。

このテーマは、本年4月に告示された飯田市議会議員選挙が無投票であったことを受け、市民とともに「議会への期待」や「議会の在り方」について考えたいという思いから設定されたものです。

意見交換では、「地元だけでなく、他地区出身の市議会

議員と直接話ができて良い機会になった」「市議会議員はもともと地域に溶け込み、市民の意見をくみ取ろうとする姿勢がある」などの肯定的な声が聞かれました。

一方で、「市の課題解決について、その途中経過を報告してほしい」「派手な政策ばかりに目が行くが、住民目線で地道な議員活動を行ってほしい」といった要望や、「議員の在り方を市民に聞くのか」といった厳しい意見も出されました。

閉会后、出席した男性は「会場では活発な意見が交わされ、市民と議会が互いの理解を深める貴重な機会となったが、出席者は比較的年齢の高い男性が多かった。若者や女性など、もっと多様な人が参加できれば、さらに良い報告会になると思う」と感想を語っていました。



# 座光寺の子どもを語る会

## 何かができると

### 動き出そう

推進委員会 片桐 善昭

子どもの健やかな成長を願う、学校・保護者PTA・地域住民が一堂に会して話し合う「座光寺の子どもの語る会」が10月24日(金)座光寺小学校体育館において約40名の参加により開催された。

今年は、各学年で取り組んできた文化と未来を考える「ふるさと学習」各テーマの発表を参観し、感想を含め、座光寺の子どもの良いところ、どんな子どもに育ってほしいか、大人が何をしてあげられるかなどをグループに分かれて意見交換を行った。

主な意見では、元氣よくあいさつができ発想が豊か、素直で仲が良い、将来地域に誇りをもって、思いやりのある大人に育ってほしい、目標を見つけ諦めずに挑戦してほしいなどがだされた。

大人ができることでは、普段から声掛けをする・住み続けられる環境づくり・地域の良さを伝えられる体験の場づくり等多くの意見が出された。今回出された意見を共有し、少しでも実現できるように動き出すことに期待したい。

座光寺小学校校長

宮澤 昭二

10月24日(金)に「座光寺の子どもの語る会」が行われました。約40名ほどの地域の方、保護者の皆さん、教職員が8つのグループに分かれて、座光寺の子どもの達よさや期待すること、大人ができることについて話し合いました。

ひとり一人の思いや考えが書かれた付箋は、あつという間に模造紙いっぱい貼られました。あるグループでは、座光寺の子ども達には全く違う環境で育つ子ども達との交

座光寺小学校PTA会長

知久 正彦

10月24日(金)に「座光寺の子どもの語る会」が行われ、今回は地域の方、先生方、保護者の約40名でグループに分かれて子ども達の良さや子ども達への思いを話し合いました。



流が必要ではないかという意見が出されました。

例えば、座光寺と交流をしている渋谷区の子ども達とそれぞれの地区の魅力や課題を伝え合うことができたなら、子ども達の見方や考え方は今以上に深まってくるのではないかとという意見に一同が「おもしろい」そういう機会ができたらいいなあ」となりまし

た。1時間余りの短い時間で座光寺の子ども達の成長や将来に思いを馳せる大変有意義な時間となりました。

た。それぞれの自分の思いを付箋に書き、グループごとに模造紙に貼っていくカタチでしたが、どのグループの模造紙もたくさんさんの思いや考えでいっぱいになりました。

座光寺の子ども達が違う環境で育つ子ども達と交流できたら見方や考え方が深まっていくのではないかという意見、地域で子ども達と関わる機会が少なくなっているという声、夏場の暑さなど昔と環境が変わる中でどんな体験をさせてあげられるかなど様々な意見が出されました。

普段関わることのない方の子ども達に対する思いや意見

を聞くことができ、自分もまた違う見方ができましたし、保護者の一人としてこのような機会があることをありがたく感じました。

## ごみゼロ運動 住みやすい地域への 確かな一歩

環境衛生委員長 棚田 智之

全市一斉、秋のごみゼロ運動が11月9日(日)に行われました。座光寺地区でも382人の方々に参加していただき多くのごみを拾うことができました。

また、6人の子どもさんにも参加いただきました。

ごみゼロ運動を通して皆さんと協力して地域環境のためごみを減らすことができ実際に参加することで落ちているごみの多さや、活動後の変化を実感することができました。皆さんと声を交わしながら清掃することでつながりもうまれ、座光寺を大切にしている気持ち



ちが広がり、住みやすい地域への確かな一歩につながったと思います。ご協力ありがとうございました。

## 子どもとの絆を育む 乳幼児学級ファミリーデー

原地区 代田 聖子



乳幼児学級のイベントでファミリーデーが毎年秋ごろ公民館で開催されています。娘が8カ月の時から毎年家族で参加しています。

母親はヨガに参加できます。毎回肩や首周りが楽になるので私は心身のリフレッシュになっています。父親は家ではなかなかできないダイナミックな遊びを子どもとできて楽しい時間を過ごしています。子どもとの絆を作れるいいきっかけになると思います。娘は成長とともにこのイベントを楽しんでいます。





# パノラマファームりんごまつり



飛来したアサギマダラ



さいごに、サンふじのリンゴジュースをのみました。サンふじのリンゴジュースは、はちみつのようにとてもあまくておいしかったので、2はいいもかわりました。  
また、来年もやりたいです。

9月28日に、お母さんと兄とわたしで、パノラマファーム大門へ行きました。  
さいしょに、アサギマダラの話を聞きました。フジバカマに止まるアサギマダラが、とてもきれいでした。  
つぎに、りんごがりをしました。さいしょに、シナノピツコロ、そして、こう玉、秋ばえをとりました。シナノピツコロが一番おいしかったです。

おいしいたのしい  
りんごがり

座光寺小2年 西田雅美





**山ぶどう香る会場  
芸術家が魅せた  
熱演**

10月19日(日)、麻績の里舞台校舎と麻績の広場で「地産地SHOW—その土地の名産をSHOWと共に—」が開催された。

主催は、昨年竣工150周年を迎えた麻績の里舞台校舎の記念公演として上演された『さくらと舞台桜』を手掛けた南信州アートラボ(主宰・野口千英子さん)。舞台校舎を広く知らせる新たな活動として実施された(協賛・支援等は下部に記載)。

表現ワークショップの発表や、信州まし野ワイン(Vin Vie、塩澤農園、福田園、アロンネ、三角屋による座光寺産山ぶどうワインなどの販売も行われた。

日没後の18時からは、南信州ゆかりの芸術家による舞台『娘火恋紅蓮染(おひちひれんのぐれんぞめ)』座光寺版お七〜が上演された。ライトアップされた舞台桜の下、等身大人形遣いの百鬼ゆめひなさんが演じるクライマックスは、観客を魅了した。



地元産ワインなど販売



表現ワークショップ発表



南信州アートラボ 娘火恋紅蓮染

- ◆主催：南信州アートラボ
- ◆協賛：(有)夢萬亭、(有)東設、(有)愛建工業、元善光寺、エス・バード売店おいでなんしょ、cafe鈴々舎、光仙閣薬局、このんこぴあ、さすが家、3びきのこぶた座光寺店、そば善、太陽建機レンタル、ほっともっと飯田座光寺店、焼肉きんぐ座光寺店、佐々木行博
- ◆支援：信州アーツカウンスル(一般財団法人長野県文化振興事業団)
- ◆後援：飯田市教育委員会、松川町教育委員会、信濃毎日新聞社、南信州新聞社
- ◆協力：麻績の里振興委員会、須山造



## 敬老祝賀会

### 言葉にして わかったこと

高陵中3年

岩本龍之介

今回の発表では、おじいちゃんとおばあちゃんへの日頃の感謝をあらためて言葉にすることができました。作文は読む前は少し緊張しましたが自分の感謝の気持ちをしっかりと伝えたいと思いながら発表しました。

声に出して読むことで普段は照れくさくて言えない気持ちも自分の中で整理されて2人がどのくらい自分のことを大切にしてくれていたのかを深く実感できました。また多くの方々に聞いてもらうことで感謝を伝える大切さも改めて知りました。

今回の発表を通して、日常の中にある優しさに気づくことができたのでこれからも感謝を忘れずにしたいと思います。



## 歴史講演会

### 地域が守りつなぐ財産 「弓矢沢入」の歴史語る

9月27日(土)、麻績の館で

歴史講演会「座光寺と弓矢沢入」が行われた。講師は飯田市歴史研究所の羽田真也さん。「江戸時代の村の研究をする上で、山は切り離すことができない。ところが私は山に入ったことも木を切ったこともない。山のことを教えてもらう代わりに講演を引き受けた」と経緯を語った。講演に先立ち、財産区関係者とともに弓矢沢入に登り、現地確認を行ったという。羽田氏は「平和に暮らしていると文書

### 座光寺の歴史ロマン さらに広がる 室町・戦国時代の座光寺

11月15日



(土)麻績の館で、歴史に学び地域

をたずねる会主催の歴史講演会が開かれた。演題は「室町・戦国時代の座光寺氏・松岡氏との関係を再考する」。講師は県立歴史館の花岡康隆さん。会場は60名以上の参加者で満席となり、歴史への関心の高さがうかがえた。花岡さんは昨年、雑誌「伊

は残りにくい、対立がある」と収めるための覚書が残る」と説明。座光寺村の住民が市田郷の山(弓矢沢入)に入り、争いが生じた歴史を解説した。前長野県考古学会会長小林さんは、「当時の延長上で現在、弓矢沢入は財産区で管理している。時が経過する中で、人と人との関わりによって繋ぎ続けられてきた地域の歴史の姿がある。山もまた同じだ」と話した。



那」に今回の講演の基となる研究成果を寄稿。座光寺氏と松岡氏の関係を、従来とは異なる視点から読み解く仮説を提示している。座光寺氏や南本城に関する史料は少なく不明点も多いが、当時の古文書を手がかりに研究を進めているという。

講演の最後には牧野自治会長が「座光寺には『2000年浪漫の郷』という委員会があるが、まさにこの地域のロマンがますます広がった感じがしました」と締めくくり、盛況のうちに終了した。

## 財産区の活動と

### 歴史講演会感想

財産区議長 松澤 源根

財産区の活動は、林道・遊歩道・登山道の整備や管理地の除草、支障木の撤去及び山に興味を持ってもらうための啓発活動です。今の管理地は歴史講演会でも説明がありましたが、大昔からの争いごとがあり、特に高森とは境界や山の利用について、お上に、お裁きを訴えでるくらいいもめごとがあったようです。そんな関係もあり、弓矢沢林道の整備は高森管理部分と座光寺管理部分が今でもあります。歴史を紐とくと少しは理解できます。

山の整備は獣との共存のため



財産区山作業の様子

めにも必要であり、見えない形で環境維持に役立っていることをぜひ理解していただき、ご協力をお願いします。

### 「リニアの仕組みを 学ぼう」に参加して

座光寺小5年 三村 真希

私がこのイベントに参加し、一番印象に残っているのは、リニアは「速くて磁石で動く」ということです。

JRの方が、そのことを分かりやすく解説してくれました。リニアは、その車両と、ガイドウェイというところに電気を通すと、磁石の力が働き、反発、吸引の力で速く進むそうです。そのため、開業すれば、時速500キロで世界最速になるということも教えてくれました。

近い将来、リニアが開通すればこの座光寺も有名になると思います。今回この話を聞き、リニアが速いひみつや、リニアの未来について知り、開業が楽しみだなと思いました。





## 座光寺の子どもたち

### 「キラリ☆ハタラキ」を通して

高陵中学1年 今村奏太

僕は、「キラリ☆ハタラキ」(「職場体験学習」の実行委員になりました。参加者に見てもらった説明動画の撮影では、出演者へアドバイスをしたことで、楽しく、わかりやすい動画になりました。実行委員の活動は大変でしたが、準備をすることで司会の進行などもスムーズにできました。また、参加して心に残ったのは飯田動物園さんの講座で、飼育員さんのお仕事を詳しくお聞きしました。飼育員さん

### 科学実験教室で学んだこと

座光寺小6年 今牧莉瑚

私はロケット作りを初めてしました。上の部分を作る時に指を入れて巻く所が全然できなくて特に難しかったです。



からは、お客さんに喜んでもらうため、動物をよく観察することで動物が元気で過ごせるようにしていることを学びました。よく行っていた場所でも働く人の考えや、やりがいを知ることができ、自分の今後に活かしたいです。



でも毎年6年生がロケットの打ち上げをしているところを見ていいなと思っていたので、無事に作れて打ち上げられたので嬉しかったです。部品を付けてもらっている間に教えてもらった天体やロケットの話は面白かったし、参考になりました。興味が出たので、今度調べてみようと思いました。最初はうまく作れるか不安だったけど、講師の方やスタッフの方が丁寧に教えてくれたので、ちゃんと作ることができました。色々とためになることを教えてくれてありがとうございました。

### たのしかったね!!

座光寺保育園長 壬生恵美

毎年、この時期にプロの劇団の方が来てくれて、人形劇を楽しんでいます。今年は「さんさん劇場」さんが来てくれて「わわわわ わっしょい」さるかにばなし」の2作品を上演してくれました。

この日は、未就園児さんも一緒に人形劇を楽しみました。座布団や風呂敷、手ぬぐいや日用品を使ってできたお相撲さんの人形には、子どもたちも大喜び。子どもだけでなく、大人でも涙が出る程笑いました。

劇団の方がとてもユーモアのある方で、セリフのやりとりや言葉の投げかけが楽しく、どの学年の子どもたちも楽しむことができました。これからも、様々な楽しいものに出会える機会を作っていきたいです。



### 飯田市女性バレーボール大会

バレーボールチーム P.I.E.C.E

白子 佑実

待ちに待った飯田市大会。なかなか全員が集まっていたの練習はできなかったのですが、ここはチームワークで乗り切ろう!!と当日を迎えました。久しぶりの試合でしたが緊張感はなく、みんなリラックスして試合に臨みました。

声を掛け合いながらボールを追いかけて、1勝1敗という結果に終わりました。とにかく楽しむ心を忘れずに全員バレー、笑顔でP.I.E.C.E

### プラネタリウムで星空の学習

— 星空観察会が

開催されました —

12月6日(土)、公民館健全育成部主催の星空観察会が開催され、参加者はプラネタリウムで星や宇宙について学びました。

当日は、遠山郷霜月祭の特集や、解説員・牧島さんによる星空解説、「ムーンベース」月面基地のミライ」の3つの番組を鑑賞しました。

「ムーンベース」では、月面に氷が発見されたことをきっかけに、人類が月で生活する未来が描かれ、参加者に夢を与える内容となっていました。



しいバレーができました!! 今後も楽しむバレーを忘れずに続けていきたいです!! 館長さんはじめ皆様の応援ありがとうございました。

した。

参加した西田英一さん(小学4年生)は、「牧島さんの星空の解説が分かりやすく、アンドロメダの神話は僕が知っている話でとても嬉しかったです」と感想を話していました。



## 座光寺のクマ

今年は全国的にクマの話題が多かった。隣の上郷では上県道沿いの上郷木材付近に出現、市内山本の杵原学校付近や飯田文化会館近くなど、いわゆる「人里」に出現した。上郷のクマはその後駆除された。

山本のクマはどこから来たのか不明だが、阿知川沿いに来たものが二ツ山山地沿いに移動した可能性がある。川沿いに来るのは多くの場所に防鹿柵<sup>ぼうろくさく</sup>があつてクマも通れないからだ。川には柵が無い。

## クマの一般的なこと

北海道にいるのはヒグマ、本州と四国にいるのはツキノワグマ、九州はクマが絶滅した。四国は20〜30頭、高知県は絶滅危惧種に指定している。

餌は雑食。樹の実や芽、動物質・魚・虫などである。一般に奥山は植林が進んで多くはカラマツ林であ

る。この林には餌が無い。今までは里山の人の生活圏に近い所にいたとされる。多くの場合、人目を避けていたのである。秋にクマは栄養をとり、体内脂肪を蓄えて冬眠をする。しかし脂肪の少ないクマは冬眠しない。出産は2年に1回、1〜3頭だが栄養が少ない個体は出産しない。

## 山の変化

多くの場所で防鹿柵<sup>ぼうろくさく</sup>が作られ、里山は藪になつてクマも隠れる場所が無くなっている。それにクマが人の怖さを知らない。知ったクマは駆除されてしまっている。

実際、山を歩いても餌になるものを見つけることは難しい。雑食性だから人の食べれるものを想定してみると良い。クマは弁当の無い山旅をしているようなものだ。

実をつける樹木は基本的に「実をつけない」年がある。これは実を食べる昆虫などの増加を防ぐためだ。



ツキノワグマ

宮崎山の神付近・右は箱罾・下に餌のリンゴ(2025・8・23)座光寺猟友会(湯沢正典会長)提供

今年はその当たり年のようだ。

## 座光寺のクマ

今年は6回、箱罾に入つた。その内最後の10月28日は防鹿柵の内側(人里側)であつたと言う。侵入方法はよく分かっていないが柵に乱れたところがあつたらしい。

6回の記録のうち、3回は同じ個体、山奥(片桐松川上流)に放した個体が戻つて来たという。つまり座光寺に現れた個体は4個

体である。同じ個体が捕獲されたことはクマの移動距離が多いこと、個体数が少ないことを示唆しているように思える。また捕獲されたクマは痩せていたという。山林に餌が無いからだろう。これは防鹿柵の結果かも知れない。

## 今後どうする

共存する方法を探っていくしかないだろう。クマには人の怖さ、恐ろしさを知ってもらふことだ。

(伊那谷自然友の会 小林正明)

## 編集後記

2度の野外フェスへの出演など、地元飯田で精力的に活動しているグリムスパンキー。3月に、飯田文化会館で単独公演を開催。1,200枚余りのチケットを即日完売させ、数千人規模のコンサートを飯田で成功させる可能性を示しました。

グリム凱旋公演の翌週、市スポーツ協会などは南信州広域連合へ「大型アリーナ建設」の要望書を改めて提出しました。プロスポーツの公式戦や中高生年代の屋内競技の県大会の地元開催など、スポーツが夢を与えると訴えました。

大型アリーナで、コンサートやスポーツ大会、演劇や芸能などのイベントが催されると盛り上がるでしょう。郷土出身者の出演だとなおさらです。

この地域には、スポーツ・芸術・文化などのクラブやスクールが多数あります。そこに通う一人ひとりが、第二のグリムとして、スポーツ界・演劇界のスターとしてアリーナの舞台に立つ可能性を秘めています。地域の熱意で、大型アリーナに凱旋する郷土の星を迎えましょう。

(広報部下村)

